

野菜の作業

台風に備え、パイプハウスや支柱の補強・排水対策を怠り無く！

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・ニンジン ・ダイコン ・カブ ・葉ネギ ・ニラ ・チンゲンサイ ・タアサイ など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロッコリー ・レタス など 	<p>【ブロッコリーの定植】 緑黄色野菜の代表！ビタミンCが豊富 動脈硬化やガンの予防に効果的！</p>  <p>1) 施肥（10㎡当たり） <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥：20kg ・基肥：MMB40号 1.8kg ・追肥：追肥化成（2回程度） </p> <p>2) 栽植密度 <ul style="list-style-type: none"> ・うね間70cm×株間35cm </p> <p>3) 収穫 <ul style="list-style-type: none"> ・定植後40～45日で収穫 ・花蕾が十分に発育したら収穫。軟弱野菜なので収穫直後から涼しいところで荷造りを！ </p>
	<p style="text-align: center;">収 穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・スイカ ・スイートコーン ・ピーマン ・キュウリ ・トマト ・ユウガオ ・カボチャ など他多数！ 	
<p>【カボチャ収穫の目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本種 開花後30日程度たった頃で、果皮がやや褐変し、白粉をふき始めれば順次収穫が可能 ・西洋種 開花後45～50日たった頃で、果梗がコルク化し、亀裂が全面に入ったら順次収穫が可能 ・ズッキーニ 開花後4日程度(果長20cm)が目安 	<p>【アブラナ科野菜の根こぶ病防除】</p> <p>根に「こぶ」ができ、養水分の吸収が悪くなるため作物の生育が悪くなり、時には収穫ができなくなる（ネコブセンチュウとは異なる）</p> <p>1) 多発する条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根こぶ病菌（カビ）が病原菌 ・温度：20～25℃ ・酸性土壌（PH4.6～6）が多い。逆にPH7以上になると少ない ・排水が悪いほ場や大雨の後の湛水状態で発生が増加する。 <p>2) 対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラナ科以外の作物と輪作を行い根こぶ病菌の密度低下を図る(基本) ・酸性土壌は石灰を散布して酸度矯正を行う（土壌診断を行いましょう！） ・排水対策を施す（額縁排水等） ・薬剤（ネビジン粉剤）を散布する →播種または定植前に全面土壌混和で1aあたり3kg散布する。  <p style="text-align: right;">（写真：ハクサイの根こぶ病）</p>	

果樹の作業



プルーンの収穫が始まっています！

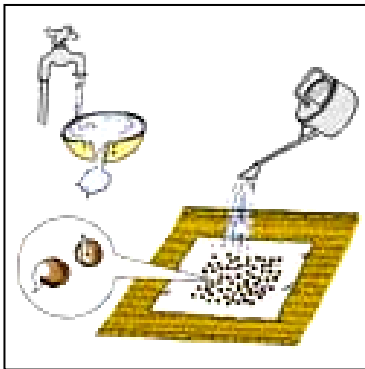
【プルーン収穫の注意点】

- ・生食用としてはブルーム（果実表面の白い粉）の有無が商品性を左右しますので丁寧に扱きましょう。
- ・日持ちを良くするため、朝の涼しい時間帯に収穫しましょう。
- ・中晩生種の裂果防止には、収穫予定30日前からの「雨よけ」が効果的です。（雨よけ資材の準備をしましょう）

質問コーナー

レタスやホウレンソウの夏場の種まきは「芽だしまき」をすると良いと聞きました。その理由と方法について教えてください。

レタスやホウレンソウの種子は「高温で休眠に入る」性質があり、気温が高い夏まきでは発芽が不良になることがあります。これを回避する手段が「芽だしまき」です。



【方法】

- ・半日から1日程度水につけ、浮いた種は捨てます。
（水は1～2回替るか流水の掛け流しとし酸素不足を防ぐ）
- ・種を布の上にあけ、一度水を切ります。
- ・湿った布で包みビニール袋へ入れ湿度を保ちながら、2日程度、冷蔵庫（5～10℃）に入れ発芽させる。
- ・全体の70%程度が1～2mm発芽したら蒔き時。
- ・種まきは湿った砂と混ぜ、一緒に播くと根や芽を傷めません。

また、これらの野菜は蒔き畦の表面に、敷き藁やモミガラをまいたり、寒冷紗やヨシズで覆い地温を下げることで発芽率が向上します。暑い夏は地温低下対策を講じましょう。

質問コーナー

今年は水稻の生育が進んでいると聞きます。これからの管理のポイントを教えてください。



今年の水稲の生育は平年に比べ7～10日進んでいます。

- ・8月上旬は出穂期を迎えますので、ほ場を良く見回り「穂いもち」防除を行いましょう。
- ・これからも、このような天気が続きますと「胴割れ米」の発生が懸念されます。
→水田毎の出穂期（田の約1/2が出穂した日）を把握し、適期刈り取りを行いましょう。
→コンバイン・バインダーの準備・整備を計画的に進めましょう。

（収穫適期予想：丸子有線の農事メモ等で順次おつなぎしますので参考にして下さい）